

断捨離でまずは捨てたい我がボヤキ

藤井 節子

亡き父の笑顔に手向く芋焼酎

橋本 夏樹

身に余る賞をいたゞき感無量

山口 美智子

季語探すスマホに墓のご案内

戸田 粧子

老いの夫見れば見る程いとおしい

坪郷 英美子

だんしゃりでまずはすてたいわがぼやき

ふじい せつこ

なきちちのえがおにたむくいもじょうちゅう

はしもと なつき

みにあまるしょうをいただきかんむりよう

やまぐち みちこ

きごさがすすまほにはかのごあんない

とだ まさこ

おいのつまみればみるほどいとおしい

つばごう えみこ

朝練の揃ふ足並青田道

林 保江

木洩日を蹴散らす小さな夏帽子

河野 怜子

天ぺんを一匙くずす夏氷

貞弘 和子

打水やかるく一礼ピアスの子

田中 孝利

夫と子のスポーツ談義夕端居

春吉 智子

あされんのそろふあしなみあおたみち

はやし やすえ

こもれびをけちらすちいさななつぼうし

かわの れいこ

てっぺんをひとさじくずすなつごおり

さだひろ かずこ

うちみずやかるくいちれいびあすのこ

たなか たかし

つまとこのすぽーつだんぎゆうはしい

はるよし ともこ

けさの風川の波紋もゆるやかに
母の着物の柄思い出す

中司 和子

ふり向いて我の遅れを待つ夫と
ふんばる坂の向うにお地藏

江川 詳子

初なりのきゅうり一本ぶら下がり
毎朝悩む収穫の時

弘重 和恵

子の呉れし初摘みの茶はさみどりで
一煎目は先ず母に供へん

藤井 美智子

梅雨あけをまっていたよと赤トンボ
上下に乱舞団地の売地

森坂 達夫

けさのかぜかわのはもんもゆるやかに
ははのきもののがらおもいだす

なかつか かずこ

ふりむいてわれのおくれをまつつまと
ふんばるさかのむこうにおじぞう

えがわ しょうこ

はつなりのきゅうりいっぽんぶらさがり
まいあさなやむしゅうかくのとき

ひろしげ かずえ

このくれしはつつみのちはさみどりで
いっせんめはまずははにそなへん

ふじい みちこ

つゆあけをまっていたよとあかとんぼ
じょうげにらんぶだんちのばいち

もりさか たつお

ふしぎだ年々人生が駆け足になる

賤間 由美子

どこから来てもきょうは今日の風

田中 秀子

青葉ゆらゆら青蛙

岡村 裕司

十二回忌の梅酒台所の隅でひっそりと

権代 祥一

シューマンの狂気を潜める幻想小曲集

吉野 俊夫

ふしぎだねんねんじんせいがかけあしになる

ざいま ゆみこ

どこからきてもきょうはきょうのかぜ

たなか ひでこ

あおばゆらゆらあおがえる

おかむら ゆうじ

じゅうにかいきのうめしゅだいどころのすみでひっそりと

ごんだい しょういち

シューマンのきょうきをひそめるげんそうしょうきよくしゅう

よしの としお